

“モンツキドリ” お正月にぴったりの名前です

明けましておめでとうございます。本年も「陶史の森だより」をどうぞよろしくお祈りいたします。

さて、お正月にちなんで今回は“モンツキドリ”をご紹介します。写真は上がオスで下がメスです。どちらも左右の翼に白い部分があり、まるで和服の“紋付き”を着ているように見えるのでこんな名前が付きまして。本当の名前は、「ジョウビタキ」。大きさはスズメと同じぐらいの14cm程で、冬になるとサハリンや中国西部から日本に飛来する冬鳥です。陶史の森では、11月初旬から3月までの間、時折見掛けます。警戒心が比較的低く人の気配がしてもあまり動じず、かなり近づかないと逃げません。

ジョウビタキのオスは、頭が銀白色、顔は黒色、腹と胸が橙色と、とってもカラフルです。一方、メスは体全体が灰色かかった茶褐色で、少し地味な感じ。野鳥はオスのほうが派手なのかな？

ジョウビタキを漢字で書くと「耐火焚」。「耐」は銀髪という意味で、「火焚」は火打石をたたく音ということです。オスの頭部は銀白色で、さえずる鳴き声は「ヒッヒッ」とか「カッカッ」ですから、火打石で火をおこす音と似ているため、こんな名前が付いたのでしょう。

今時、火をおこすのに火打石を使うことはほぼありませんが、古来人々の生活に根付き、身近な季節の使者として親しまれていたのでしょうね。



森の日記

仕事をするということ

11月1日・2日の2日間、肥田中学校2年の男子生徒2人と女子生徒1人が、陶史の森へ職場体験学習に来てくれました。ヒツジやウサギ、アヒルなど動物の世話や花壇の草抜き、花の植え替え作業などを体験してもらいました。

また、朽ちた枝の回収、軽トラックへの積み込み、処分作業にも汗を流してもらいました。山砂を猫車に積み込み、へこんだ場所まで運び地ならし作業。生徒さん達の感想の一部を紹介します。

「土を運びボコボコのところを埋めるのは、重労働で大変でした」、「子どもたちに安全に遊んでもらいたい、お客さんのためにという思いで頑張りました」



3人とも大変ご苦労様でした！
きっと立派な大人になれるぞ！



教室のご案内

- 1月**
バードウォッチング（自由参加、雨天中止）
1月22日（日）午前9時～11時30分
真冬の野鳥を観察します。
- 2月**
バードウォッチング（自由参加、雨天中止）
2月26日（日）午前9時～11時30分
真冬の野鳥を観察します。

